

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	水道課	主管課長名	島崎 寿春
5-6	施策名	上水道の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	40,483	40,027	39,571	39,115	
実績値						41,278	40,483	39,692	38,905	38,422	
見込値											
											実績値
安全安心な水が安定供給されている。			②水道普及率(給水人口/常住人口)	目標値	%		92.8	92.9	93.0	93.1	
				実績値		92.5	92.9	93.1	94.0	92.3	
			目標値	%		69.5	70.0	70.5	71.0	71.5	
			実績値		66.2	64.2	60.4	59.4	63.7		
③水道水に満足している市民の割合		目標値	%		56.8	57.1	57.4	57.7	58.0		
		実績値		56.5	55.4	59.6	50.2	51.8			
④経常収支比率		目標値	%		101.8	102.0	102.2	102.4	102.6		
		実績値		96.3	95.1	91.3	96.5	93.5			
⑤水道料金収納率	目標値	%		93.8	93.9	94.0	94.1	94.2			
	実績値		94.5	94.3	95.5	96.9	96.4				
成果指標設定の考え方	○水道水を安定供給するという指標は、水道水を市民がどれだけ使用しているかということで①「水道普及率」を指標とする。 ○水道事業の健全経営の指標として②「有収率」(有収率:配水量に対し使用された水量)と④経常収支比率(経常収益÷経常費用)を指標とする。 ○安全でおいしく、低廉な水を供給することの成果指標は③「水道水に満足している市民の割合」とする。 ○⑤収納率が上がることは料金収入が増えることになり、経営の安定化につながる。										
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①水道普及率(給水人口/常住人口)、②有収率は、水道統計調査表より求める。③水道水に満足している市民の割合は、市民アンケートより求める。④経常収支比率は、地方公営企業決算状況調査報告書より求める。⑤水道料金収納率は、水道課決算明細表より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①令和3年度は水道新規加入が57件あった。水道普及率は、人口減少や新規加入の減少などにより低下した。 ②有収率が低いのは、配・給水管の老朽化により漏水が影響しているが、漏水調査及び修繕の成果もあり令和2年度に比べ向上した。 ③水道料金が高いと考える意見が多い中、特に大きな断水事故がなかったことにより、水道水に満足している市民の割合は令和2年度より向上した。 ④経常収支比率は、令和2年度に比べ費用の増加により低下した。 ⑤水道料金収納率は徴収業務委託の効果が見られ、例年に比べ向上。令和2年度に比べると若干低下した。 成果比較5項目のうち、2項目が向上した。普及率、経常収支比率は低下したが、水道料金収納率は前年度並み、有収率は向上したため全体の成果としては横ばいと評価した。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①普及率は、前年度より1.7ポイント減少し目標値も下回った。 ②有収率は、前年度より4.3ポイント上昇したが、目標値は下回った。 ③水道水に満足している市民の割合は、前年度より1.6ポイント上昇したが、目標値は下回った。 ④経常収支比率は、前年度より3.0ポイント減少し目標値も下回った。 ⑤水道料金収納率は、前年度より0.5ポイント減少したが目標値を上回った。 収納率のみ目標を達成したが、他の指標について目標値を下回った。 要因としては、漏水個所の特定が困難、さらに老朽施設の修繕等に費用がかさんでいるためと考えられる。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和3年度に貢献度の高かった事業は、「取水・浄水施設管理運営事業」「水道給配水施設維持管理事業」の2事業である。「取水・浄水施設管理運営事業」「水道給配水施設維持管理事業」は、ほぼ例年同様ではあるが、水道の安定供給には欠かせない事業でありその役割は大変大きい。	例年、水道施設の老朽化に伴う更新及び修繕や人口減少による給水収益の減少への対応が大きな課題となっている。 有収率については、経営の健全化に与える影響が大きいため、引き続き有収率向上を意識して漏水の発見に尽力して取り組む。 水道施設(取水・浄水・配水等)の維持管理につきましては、経営健全化に与える影響が大きいため、桜川市水道事業経営戦略の見直し(令和4年度末策定)により、計画的な水道施設の更新等を予定する。